

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	英語 I					学年	1
講師名	日野 忠大	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

国際社会に対応し得る能力を養い、英会話の基礎を身に付ける。
医療従事者として、人体の部位の英単語及び医療的な英会話を身に付ける。

講 義 内 容	1	日常の英単語
	2	日常の英単語
	3	身体部位の英単語
	4	身体部位の英単語
	5	医療英会話
	6	医療英会話
	7	リスニング
	8	リスニング
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	シミュレーション実習 I					学年	1
講師名	専任教員	時間数	225	単位数	5	コマ数	113

教科目標

救急隊員の責務、心構え、知識の向上を実技及びシミュレーションを通し、国家試験合格レベルの学力を身につける。また、MCの意味を理解する。さらに近年のプレホスピタルケアの処置拡大に伴う高度化した救急資機材の機能や特性を把握し、取扱いの習熟、保守管理を含めた手技を学ぶ。

講 義 内 容	1～10	礼式(物品の授受、隊の編成、停止間の礼式、行進間の礼式、始業点検、車両点検、救急車取り扱い説明、展示)
	11～18	結索法、包帯法(本結び、モヤイ結び、八の字結び、巻き結び、その他結索全般) 三角巾法(全巾、半巾、たたみ三角巾、その他)、巻軸包帯、展示
	19～23	徒手搬送法(ファイヤーマンズキャリア法、バックストラップ法、サドルバック法、ヒューマンチェーン、組み手搬送、両手搬送、抱き上げ搬送、支持搬送、救出搬送、視力障害歩行体験)
	24～35	担架搬送法(メインストレッチャー、サブストレッチャー、布担架、スクープストレッチャー、バックボード、曳航法、担架収容法、車内収容法、ストレッチャー上での固定)
	36～40	保温法(毛布1・2・3枚法、アルミシート法、冷罨法、温罨法) 止血法(直接圧迫止血、間接圧迫止血、止血帯、止血棒、ターニケット)
	40～50	体位管理(ストレッチャー上での仰臥位、昏睡体位、トレンデレンブルグ位、逆トレンデレンブルグ位、起座位、半座位、展示) 固定法(副子固定、アルフェンスシーネ、マジックギブス、ポリネック)
	51～65	観察(環境観察、出血、嘔吐、顔貌、失禁、四肢変形) (意識(JCS、GCS)、呼吸(聴診器)、脈拍、血圧体温、瞳孔(ペンライト)、展示)
	66～75	気道管理(食道閉鎖式エアウェイ、ラリングアルマスク、気管挿管の手技、イージーキャップの使用法、EDDチェッカーの使用法、カプノメーターの構造・使用方法)
	76～85	静脈路確保、薬剤投与(輸液セットの設定、静脈路の知識、必要な資器材、アドレナリンの知識、薬剤投与の適応、静脈路確保の指示要請ならびに救命士報告、展示)
	86～113	隊での活動

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	臨床検査					学年	1		
講師名	池田淳也 吉田英明			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
臨床検査の目的、意義、種類、検査方法について理解を深める。									
講 義 内 容	1	臨床検査概論							
	2	一般検査、血液検査							
	3	凝固検査、輸血・血液型検査							
	4	免疫検査、生化学検査							
	5	生化学検査、微生物検査、緊急検査							
	6	生理機能検査							
	7	生化学検査、病理・細胞診検査、画像検査							
	8	画像検査、まとめ							
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
	15								

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	一般知能・一般知識Ⅰ					学年	1
講師名	大室 英幸、田村 和香子	時間数	90	単位数	6	コマ数	45

教科目標

将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を会得する。

講 義 内 容	1	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))
	2	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))
	3	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))
	4	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))
	5	社会科学(政治(国会・内閣・人権など))
	6	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))
	7	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))
	8	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))
	9	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))
	10	社会科学(経済(市場経済・金融と財政など))
	11	人文科学(日本史)
	12	人文科学(日本史)
	13	人文科学(日本史)
	14	人文科学(世界史)
	15	人文科学(世界史)
	16	人文科学(世界史)
	17	人文科学(地理)
	18	人文科学(地理)
	19	人文科学(地理)
	20	人文科学(地理)
	21	人文科学(文学)
	22	人文科学(芸術)
	23	判断推理
	24	判断推理
	25	判断推理
	26	判断推理
	27	判断推理
	28	数的推理
	29	数的推理
	30	数的推理
	31	数的推理
	32	数的推理
	33	文章理解・資料解釈(現代文)
	34	文章理解・資料解釈(現代文)
	35	文章理解・資料解釈(古文)
	36	文章理解・資料解釈(英文)
	37	文章理解・資料解釈(数表・グラフ)
	38	自然科学(物理)
	39	自然科学(物理)
	40	自然科学(化学)
	41	自然科学(化学)
	42	自然科学(化学)
	43	自然科学(生物)
	44	自然科学(地学)
	45	自然科学(地学)

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 P A (G)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	オープンセサミを使用する 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	医学概論					学年	1
講師名	井手生朗	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

医学の本質、医学の発達、医療従事者の倫理を説明できる。
自然科学とは何かを理解し、客観性、再現性、普遍性の重要性を理解する。

講 義 内 容	1	人間と人間生活
	2	科学的思考の基礎
	3	生命倫理と医の倫理
	4	生命倫理に関する原則
	5	生命倫理の考え方と医療の実際
	6	傷病者の権利を守る立場から
	7	救急救命士の職業倫理
	8	救急救命士の職業倫理
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	解剖学・生理学				学年	1		
講師名	田中真樹、佐藤惇、三戸浩平		時間数	120	単位数	8	コマ数	60
教科目標								
人体の構造と機能を中心とした基本的内容を理解する。								
講義内容	1	解剖学とは(解剖学における用語・医学の基礎としての解剖学)						
	2	生理学とは(生理学における用語・医学の基礎としての生理学)						
	3	細胞と組織						
	4	細胞と組織						
	5	細胞と組織						
	6	細胞と組織						
	7	皮膚と膜						
	8	皮膚と膜						
	9	皮膚と膜						
	10	皮膚と膜						
	11	血液						
	12	血液						
	13	血液						
	14	血液						
	15	循環器系						
	16	循環器系						
	17	循環器系						
	18	循環器系						
	19	呼吸器系						
	20	呼吸器系						
	21	呼吸器系						
	22	呼吸器系						
	23	消化器系						
	24	消化器系						
	25	消化器系						
	26	消化器系						
	27	泌尿器系						
	28	泌尿器系						
	29	泌尿器系						
	30	泌尿器系						
	31	内分泌系						
	32	内分泌系						
	33	内分泌系						
	34	内分泌系						
	35	生殖器系						
	36	生殖器系						
	37	生殖器系						
	38	生殖器系						
	39	骨格系						
	40	骨格系						
	41	骨格系						
	42	骨格系						
	43	筋系						
	44	筋系						
	45	筋系						
	46	筋系						
	47	神経系						
	48	神経系						
	49	神経系						
	50	神経系						
	51	感覚器系						
	52	感覚器系						
	53	感覚器系						
	54	感覚器系						
	55	免疫系						
	56	免疫系						
	57	免疫系						
	58	免疫系						
	59	解剖学まとめ						
	60	生理学まとめ						
評価方法								
終講試験など								
評価基準	新G 評P 備A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					単位認定	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						
救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する								

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	患者搬送					学年	1
講師名	中田敏宏	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

通信指令室の役割、口頭指導の概念・方法、活動記録、他機関との連携について説明できる。
 病院前救護の役割、概要、救急救命士の医療関係職種としての責任を説明できる。
 出動～現場の流れ、状況・初期評価、現場～救急自動車収容・医療機関収容の搬送方法を理解する
※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	消防機関における救急活動の流れ
	2	救急救命士の役割と責任
	3	現場活動の基本
	4	搬送総論
	5	搬送方法
	6	器具を用いた搬送
	7	搬送手順
	8	ヘリコプターへの傷病者の搬入と搬出、事故車両からの救出方法
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	看護概論					学年	1
講師名	三瓶泰子	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

医療における看護の位置づけと役割、在宅療法の概念、種類、対応について説明できる。
 傷病者とのコミュニケーションの技法、医療機関とのコミュニケーションの要点を説明できる。
 事故の発生におけるヒューマンエラー、インシデント・アクシデントのハインリッヒの法則を説明できる

講 義 内 容	1	接遇とコミュニケーション
	2	対象に応じたコミュニケーション、救急活動でのコミュニケーション
	3	安全管理と事故対応
	4	感染予防
	5	在宅療法とは、在宅療法への対応（HOT、在宅人工呼吸、気管切開）
	6	在宅療法への対応（植え込み型ペースメーカー、経管栄養、IHV）
	7	在宅療法への対応（血液透析、腹膜透析、尿道カテーテル、人工肛門）
	8	講義の復習、国家試験の過去問解説、終講試験について
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	救急災害医療					学年	1
講師名	佐藤友彦	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

わが国における救急自動車による救急搬送の現状、概要の理解。
救急医療機関の役割と要件の理解。
災害の定義、分類の理解。

※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	救急医療体制(病院前医療)
	2	救急医療体制(救急医療システム、救急医療情報)
	3	災害医療体制(トリアージ)
	4	災害医療体制(大規模災害、特殊災害)
	5	病院前医療体制(救命の連鎖、市民による一次救命処置)
	6	病院前医療体制(市民教育、メディカルコントロール)
	7	救急救命士に関する法令
	8	救急救命士の養成と生涯教育
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	呼吸器官					学年	1
講師名	境 純平	時間数	30	単位数	2	コマ数	15

教科目標

呼吸系の役割、構造、機能、仕組み、ガス交換、調節を理解する。
 呼吸不全の概念、基本的病態の説明、呼吸不全症例・緊急度が高い所見を列挙できる。
 呼吸困難の程度、分類、随伴症候、観察の要点の説明ができる。

講 義 内 容	1	呼吸器系の構成と役割
	2	呼吸、気道
	3	胸郭、肺
	4	肺胞でのガス交換 体内での酸素の働き 呼吸の調節
	5	呼吸不全総論 呼吸運動の障害
	6	気道の障害 肺胞の障害 肺間質の障害
	7	呼吸困難定義・概念
	8	分類 呼吸器による分類 程度による分類
	9	原因疾患 随伴症候
	10	緊急度・重症度の判断
	11	喀血定義・分類 喀血による影響
	12	判別を要する病態 緊急度・重症度の判断
	13	現場活動 医療機関選定
	14	呼吸系疾患総論 呼吸不全 上気道の疾患 下気道と肺胞の疾患
	15	感染症 胸膜疾患 その他の呼吸系疾患

評価方法	終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	公衆衛生学					学年	1
講師名	佐藤友彦	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

公衆衛生学の基礎知識を得る。
現象を捉え評価するデータを読む力を養う。
救急救命士国家試験に求められる公衆衛生学に関する課題への理解力を養う。

講 義 内 容	1	公衆衛生学の概念
	2	公衆衛生学の概念進歩
	3	保険指標
	4	公衆衛生学に関する行政組織
	5	人口動態
	6	疾病構造の変化
	7	医療供給体制と環境保健
	8	学校保健、母子保健、地域保健、高齢者保健、精神保健福祉及び講義のまとめ
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	処置論Ⅰ					学年	1
講師名	中田敏宏、池田淳也、境純平、吉田英明	時間数	90	単位数	6	コマ数	45

教科目標 救急現場での使用資機材の基本操作・使用方法を理解する。 資機材の使用方法から現場での対応能力を向上させることができる。 誤った使用方法による傷病者への侵襲を理解し現場での事故防止策を各自で練ることができる。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる							
--	--	--	--	--	--	--	--

講 義 内 容	1	パルスオキシメータ
	2	カブノメータ
	3	カブノメータ
	4	聴診器
	5	血圧計
	6	心電図
	7	心電図
	8	体温計
	9	気道確保
	10	気道確保
	11	気道異物除去
	12	気道異物除去
	13	口腔内の吸引
	14	声門上気道デバイスを用いた気道確保
	15	声門上気道デバイスを用いた気道確保
	16	気管挿管
	17	気管挿管
	18	気管挿管
	19	気管吸引
	20	酸素投与
	21	酸素投与
	22	人工呼吸
	23	人工呼吸
	24	胸骨圧迫
	25	胸骨圧迫
	26	自動式心マッサージ機の使用
	27	除細動
	28	除細動
	29	静脈路確保と輸液
	30	静脈路確保と輸液
	31	アドレナリン投与
	32	アドレナリン投与
	33	自己注射用アドレナリンの投与
	34	体位管理
	35	体位管理
	36	体温管理
	37	止血
	38	止血
	39	創傷処置
	40	創傷処置
	41	固定
	42	固定
	43	固定
	44	産婦人科領域の処置
	45	産婦人科領域の処置

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	情報科学 I					学年	1
講師名	太田直子	時間数	60	単位数	2	コマ数	30

教科目標

社会に出て必要なコンピューターの基礎知識(Word・Excel・PowerPoint等)や文章作成及びプレゼンテーション作成をコンピューターでできるようにする

講 義 内 容	1	導入(起動方法・ウォーミングアップ)キートレーニング・入力練習
	2	キートレーニング・入力練習・ビジネス文書の作成
	3	ビジネス文書の作成・編集
	4	単語登録・Word書式設定
	5	Word段落書式・ヘッダーフッター
	6	Word文字種の変換・タブ機能
	7	Word特殊記号の入力・タブ機能・表作成の練習
	8	Word表作成機能-応用
	9	Word図形描画
	10	Word図形描画の応用・Wordまとめ
	11	PowerPoint概要・基本操作確認・プレゼンテーションの作成
	12	PowerPoint基本操作確認・自己PRの作成
	13	自己PRの作成・発表
	14	Word復習
	15	入力テスト・前期終了前課題
	16	PowerPointの復習と活用・画面切り替え・アニメーション
	17	PowerPoint-マスター操作・内容最終確認-作成
	18	PowerPoint作成上の注意・発表方法の注意点確認
	19	PowerPoint発表準備・グループ発表・全体発表の役割分担
	20	PowerPoint発表
	21	Excel-導入
	22	Excel基本操作-確認・書式設定
	23	Excel書式設定・絶対参照
	24	Excel絶対参照復習・RANK関数・ページ設定
	25	Excel並べ替え・条件付き書式・ページ設定・IF関数
	26	Excel棒グラフの作成・IF関数・条件付き書式の応用
	27	Excel円グラフの作成・IF関数の応用
	28	Excelフィルタ・テーブル・復習
	29	ExcelIF関数-活用・ページ設定-活用・COUNTIF関数・入力規則
	30	Excel復習課題

評価方法	終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 & Microsoft PowerPoint 2021を使用する 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	心臓・血管					学年	1
講師名	三戸浩平	時間数	30	単位数	2	コマ数	15

教科目標

心臓の構造と役割、動脈と静脈、リンパ管の解剖と役割、自律神経や内分泌系を説明できる。
心不全の定義、原因、心機能、症候、慢性・急性心不全の処置・搬送・医療機関選定を説明できる。
心不全の疫学、病因、病態、症候、合併症、現場活動の説明と心電図の原理、意義、判読ができる。

講 義 内 容	1	循環系の構成と役割 心臓
	2	脈管 循環の制御
	3	心不全総論 病態生理
	4	症候 種類
	5	慢性心不全の急性増悪
	6	現場活動
	7	胸痛の定義・概念 発生機序 原因疾患 緊急度・重症度の判断 現場活動
	8	動悸の定義・概念 発生機序 原因疾患 随伴症候 緊急度・重症度の判断 現場活動
	9	循環系疾患総論
	10	動脈硬化 うっ血性心不全
	11	虚血性心疾患 心筋疾患
	12	心膜疾患 不整脈 その他の心疾患
	13	血管疾患 高血圧
	14	心電図の解読 頻脈性不整脈の心電図
	15	徐脈性不整脈 心筋の虚血性変化 その他の心電図異常

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	神経器官					学年	1
講師名	三戸浩平	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標 神経の解剖・生理と主な疾患の症状・救急処置などを中心に学ぶ。							
---	--	--	--	--	--	--	--

講 義 内 容	1	神経・感覚器
	2	運動障害が起こる理由 種類と病態
	3	感覚障害が起こる理由 種類と病態
	4	応急処置と搬送時の注意点
	5	神経の構造と機能
	6	観察と判断
	7	おもな疾患
	8	まとめ
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	生化学					学年	1
講師名	三戸浩平	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

生体を構成する物質の構造と機能、生体内での代謝や疾病時の変化などについての基本的事項を学ぶ。

講 義 内 容	1	細胞の構造と機能
	2	体液（組成、細胞外液・内液、電解質）
	3	体液（酸塩基平衡、浸透圧、電解質と体液調節の仕組み）
	4	栄養と代謝（栄養素、エネルギーを得る仕組み）
	5	外呼吸（大気、気道と肺胞、血液の酸素化と二酸化炭素の放出）
	6	循環（酸素運搬と臓器血流） 組織酸素代謝 内部環境（体液・電解質の役割とその調節）
	7	内部環境（酸塩基平衡・浸透圧・体温の役割とその調節）
	8	疾患の原因（主因と誘因、内因と外因、遺伝性と発症性、先天性と後天性）
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	生命医学倫理					学年	1
講師名	尾形敬次	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

市民社会の成立、生命の尊厳、社会規範、宗教哲学等生命倫理をめぐる基本問題を理解する。

講 義 内 容	1	インフォームドコンセント
	2	中絶と出生前診断・生殖技術
	3	脳死と臓器移植
	4	安楽死と治療停止
	5	遺伝子解読・医療問題
	6	患者－医療関係者
	7	看護と介護
	8	まとめ
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	体育 I					学年	1
講師名	高橋 幸	時間数	60	単位数	2	コマ数	30

教科目標

体力を増強し、健全な身体発達を図れる。
消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。
就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。

講 義 内 容	1	オリエンテーション
	2	ランニング
	3	自重によるトレーニング
	4	マシンによるトレーニング
	5	小隊対抗リレー
	6	ストレッチ
	7	シャトルラン
	8	ランニング
	9	自重によるトレーニング
	10	マシンによるトレーニング
	11	小隊対抗リレー
	12	ストレッチ
	13	シャトルラン
	14	ランニング
	15	自重によるトレーニング
	16	マシンによるトレーニング
	17	小隊対抗リレー
	18	ストレッチ
	19	シャトルラン
	20	ランニング
	21	自重によるトレーニング
	22	マシンによるトレーニング
	23	小隊対抗リレー
	24	ストレッチ
	25	シャトルラン
	26	ランニング
	27	自重によるトレーニング
	28	マシンによるトレーニング
	29	小隊対抗リレー
	30	ストレッチ

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	アリーナ及びインドアスタジアムを使用しトレーニングを行う		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	英語Ⅱ					学年	2
講師名	日野 忠大	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

国際社会に対応し得る能力を養い、英会話の基礎を身に付ける。また医療従事者として、人体の部位の英単語及び医療的な英会話を身に付ける。

講 義 内 容	1	海外の救急・教科書紹介
	2	日常の英単語・発音
	3	日常の簡単な英会話
	4	身体部位の英単語・発音
	5	医療英会話
	6	患者との英会話
	7	英語映画ビデオから会話を学ぶ
	8	まとめ
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	シミュレーション実習Ⅱ					学年	2
講師名	専任教員	時間数	360	単位数	8	コマ数	180

教科目標

救急隊員の責務、心構え、知識の向上を実技及びシミュレーションを通し、国家試験合格レベルの学力を身につける。また、MCの意味を理解する。さらに近年のプレホスピタルケアの処置拡大に伴う高度化した救急資機材の機能や特性を把握し、取扱いの習熟、保守管理を含めた手技を実習を通して学ぶ。

講 義 内 容	1～8	観察(疾患) 脳・神経系、呼吸器系、循環器系
	9～30	観察(外傷) JPTECの活動(初期評価・全身観察・車内活動・継続観察・詳細観察)
	31～40	JRC蘇生ガイドランによる心肺蘇生法(乳児、小児、成人の気道確保)
	40～47	用手による気道確保とBVM法による人工呼吸
	48～58	異物除去法(マギール鉗子、喉頭鏡、背部叩打法(乳児、小児、成人))
	59～63	酸素投与法 (O2マスク、カヌラ、ベンチュリーマスク、気管切開用マスク)
	64～75	チュービング法(LM、TwowayTyube、気管内挿管、気管切開用チューブの取扱い)
	76～90	静脈路確保法
	91～120	訓練礼式(各個訓練・小隊訓練)
	121～130	隊活動訓練(隊員間の連携・情報)
	131～140	微章式研究発表訓練(気管挿管・トリアージ・静脈路確保確保・JPTEC・内因性疾患)
	141～159	除細動(心停止をきたす致死的不整脈)心室細動と心室頻拍の鑑別
	160～170	除細動(心停止をきたす致死的不整脈)包括化指示による除細動
	171～180	病院実習前授業(ストレッチャー・心電図・除細動器の取り扱い・清潔操作など)

評価方法	終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	一般知能・一般知識Ⅱ					学年	2
講師名	大室 英幸、田村 和香子	時間数	90	単位数	6	コマ数	45

教科目標

将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を学ぶ。

講 義 内 容	1～7	社会科学 政治(国会・内閣・人権など)経済(市場経済・金融と財政など)
	8～14	人文科学 日本史・世界史・地理・文学・芸術など
	15～21	判断推理 集合・論理・位置関係など
	22～28	数的推理 方程式・不等式・整数・図形など
	29～35	文章理解・資料解釈 現代文・古文・英文・数表・グラフなど
	36～42	適性試験 適性・作文など
	43～45	自然科学 物理・化学・生物・地学など

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	オープンセサミを使用する 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	ショック・循環不全					学年	2
講師名	境 純平	時間数	30	単位数	2	コマ数	15

教科目標

生命維持に重要な「ショック・循環不全」に対し、分類とその判断方法を知る。
 ショックに伴い起こる生体反応、特に体液の移動による補整を理解する。
 血圧低下に対し交感神経およびカテコラミンの働きを理解する。

※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	総論～定義と概念、種類と分類
	2	総論～病態、ショックの判断
	3	総論～各種ショックの判別、緊急度・重症度の判断、各種ショックの共通の観察と処置
	4	循環血液量減少性ショック～発生機序、循環動態の変化、生体反応、体液変動
	5	循環血液量減少性ショック～原因疾患、症候、現場活動、輸液
	6	心原性ショック～原因疾患と発生機序、循環動態
	7	心原性ショック～症候、現場活動
	8	心外閉塞・拘束性ショック～原因疾患と発生機序
	9	心外閉塞・拘束性ショック～症候
	10	心外閉塞・拘束性ショック～現場活動、輸液
	11	血液分布異常性ショック～種類と発生機序
	12	血液分布異常性ショック～症候
	13	外傷の病態生理 侵襲への反応 循環動態、炎症性メディエータ
	14	外傷の病態生理 侵襲への反応 代償反応の破綻 急性期後の障害
	15	外傷の病態生理 外傷に伴うショック 出血性ショック 非出血性ショック
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P P A 新 評 価 A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	化学損傷					学年	2
講師名	金沢医科大学病院医師、中田 敏弘	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標
化学損傷の病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。

講 義 内 容	1	原因と病態
	2	化学損傷の特徴
	3	症状と処置
	4	皮膚所見の特徴
	5	汚染衣服の除去
	6	洗浄
	7	中和剤
	8	搬送時の注意点
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する	

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	観察					学年	2
講師名	金沢医科大学病院医師	時間数	30	単位数	2	コマ数	15

教科目標

救急医療における所見の把握・検査・処置方法・救急医療体制を中心に、現場観察での重要観察ポイントを学ぶ。

講 義 内 容	1	救急活動の基本
	2	初期評価と対応
	3	2次評価と対応
	4	外見の観察
	5	バイタルサイン関連事項の観察
	6	神経学的所見の観察
	7	観察法の基本
	8	皮膚の観察
	9	頭部・顔面・頸部の観察
	10	胸部の観察
	11	腹部の観察
	12	骨盤・四肢の観察
	13	緊急度と重症度
	14	判断の基準
	15	判断後の対応
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	消化器官					学年	2
講師名	三戸 浩平、井手 生朗	時間数	30	単位数	2	コマ数	15

教科目標

1～7は解剖生理 8～15は症候・病態 を中心に理解する。

講 義 内 容	1	消化管の解剖(1年生の復習)
	2	消化管の役割
	3	口腔・咽頭 誤飲と誤嚥
	4	食道 胃
	5	小腸 膵液 胆汁
	6	大腸 肝臓 門脈
	7	膵臓
	8	11. 腹痛 A. 発生機序 B. 原因疾患 C. 部位 D. 既往歴
	9	F 緊急度・重症度の判断 G 現場活動
	10	12. 吐血・下血 p775 4. 消化系疾患(B 歯・口腔疾患まで)
	11	C 食道疾患 1. 食道静脈瘤破裂 2. マロリーワイス 3. 特発性食道破裂
	12	D 胃・十二指腸疾患 1. 胃・十二指腸潰瘍 2. 急性胃粘膜病変 3. 急性胃腸炎 4. アニサキス
	13	5. 胃がん E 腸疾患 1. イレウス 2. 上腸間膜動脈閉塞症 3. ヘルニア嵌頓
	14	4. 急性虫垂炎 5. 大腸穿孔 6. 大腸憩室炎 7. 虚血性大腸炎 8. 大腸がん
	15	9. IBD 10. 痔核 11. 急性腹膜炎 F 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する	

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	心肺停止					学年	2		
講師名	若山 博文、佐藤 友彦			時間数	30	単位数	2	コマ数	15
教科目標									
心肺停止の判断や病態生理、心肺蘇生法などを中心に学ぶ。 最新のJRC蘇生ガイドライン及び心肺蘇生法の歴史を学ぶ。									
講 義 内 容	1	総論～定義・概念							
	2	総論～疫学・JRCガイドライン(1)							
	3	総論～ウツタイン様式・JRCガイドライン(2)							
	4	心肺停止に至る病態と原因～心肺停止に至る病態							
	5	心肺停止に至る病態と原因～生体酸素状況							
	6	心肺停止に至る病態と原因～主な原因疾患							
	7	心電図分類～心室細動/無脈性心室頻拍							
	8	心電図分類～無脈性電気活動							
	9	心電図分類～心静止							
	10	心肺蘇生中の循環～胸骨圧迫による循環発生の機序							
	11	心肺蘇生中の循環～全身の循環・冠循環							
	12	心肺蘇生中の循環～脳循環・胸骨圧迫の効果に影響する因子							
	13	心拍再開後の病態～虚血による臓器障害							
	14	心拍再開後の病態～再灌流障害							
	15	心拍再開後の病態～心拍再開後の回復過程・回復に影響する因子							
	16								
	17								
	18								
	19								
	20								
	21								
	22								
	23								
	24								
	25								
	26								
	27								
	28								
	29								
	30								

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する	

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	体液管理					学年	2
講師名	三戸 浩平	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

血液・体液の解剖生理と主な疾患の症状、救急処置などを中心に学ぶ。

講 義 内 容	1	血液・免疫系～血液、血球、血漿、骨髓の構造と機能
	2	血液・免疫系～脾臓、止血と凝固、止血と凝固、免疫
	3	血液・免疫系～総論、血液疾患、免疫疾患
	4	代謝障害～糖質・脂質・蛋白質・の代謝異常、体液と電解質異常、酸塩基平衡・内分泌異常
	5	その他の代謝異常
	6	溺水～病態生理、観察と処置
	7	熱中症～疫学、病態生理、観察、処置、搬送時の注意
	8	偶発性低体温～発生機序と病態生理、観察、処置
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する	

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	中毒/アレルギー					学年	2
講師名	若山 博文、金沢医科大学病院医師	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

中毒／アレルギーの病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。

講 義 内 容	1	中毒物質と中毒経路
	2	中毒の病態生理と観察・処置
	3	医療品中毒
	4	農薬中毒、工業薬品中毒
	5	ガス中毒、アルコール中毒
	6	自然毒中毒
	7	家庭用品中毒、覚醒剤中毒
	8	アレルギーの病態生理と観察・処置
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する	

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	頭部・頸椎損傷					学年	2
講師名	北海道大学病院医師	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

頭部・頸部損傷の病態生理とJPTECに基づく観察、重症度判断、処置を中心に学ぶ。

講 義 内 容	1	ロードアンドゴーの概念 ゴールデンアワーとトラウマバイパス
	2	状況評価、感染防御、現場評価
	3	初期評価 全身観察
	4	詳細観察と継続観察 頸椎固定と全脊柱固定
	5	頭部の解剖生理 一次損傷と二次損傷
	6	脳浮腫、頭蓋内圧亢進
	7	脳ヘルニア、頭蓋内出血 頭蓋骨骨折、頭蓋底骨折 脳振盪、脳挫傷、反衝損傷
	8	頭部外傷の判断と処置
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する	

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	泌尿器・生殖器					学年	2
講師名	三瓶 泰子	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

泌尿生殖器の解剖・生理と主な疾患の症状・救急処置などを中心に学ぶ。

講 義 内 容	1	泌尿器系 構造と機能
	2	生殖器系 構造と機能
	3	血尿の原因と病態生理
	4	観察と判断
	5	症状の特徴
	6	泌尿器系疾患
	7	生殖器系疾患
	8	まとめ
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	免疫/代謝/炎症					学年	2
講師名	三戸 浩平	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

免疫不全や代謝異常・炎症の病態生理と救急法を学ぶ。

講 義 内 容	1	内分泌系～内分泌、内分泌器官
	2	代謝・内分泌・栄養系疾患～総論、糖尿病とその合併症
	3	代謝・内分泌・栄養系疾患～その他の代謝異常、内分泌疾患、栄養疾患
	4	免疫(役割・仕組み・免疫系・アレルギー)1
	5	免疫(役割・仕組み・免疫系・アレルギー)2
	6	免疫疾患(アナフィラキシー・アレルギー・自己免疫疾患・膠原病)
	7	感染症～総論、敗血症、結核、インフルエンザ
	8	感染症～食中毒、輸入感染症、発疹性感染症、性病感染症、その他感染症
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	薬剤投与					学年	2
講師名	大石 悦子	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

心肺停止傷病者の病態に応じて薬剤投与を的確に施行する知識を身に付ける。また薬剤投与に伴う危険認識、人体の影響を学ぶ。

講 義 内 容	1	薬物総論
	2	薬物の有害作用
	3	救急救命処置に用いられる薬剤
	4	アドレナリン・乳酸リンゲル・ブドウ糖
	5	使用頻度の高い薬(1)
	6	使用頻度の高い薬(2)
	7	輸液・輸血製剤
	8	保存と保守管理
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する	

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	臨床実習					学年	2
講師名	実習指導医	時間数	160	単位数	4	コマ数	80
教科目標 救急救命士の行う救急救命処置は専門的な知識及び技能を要するため、救急医療を担当する医師の指導の下、病院内に於いて救急医療に関連した知識の応用と、救急救命処置に係わる技能の習得を主体に、医療現場の見学と医行為の介助等を通じて診療の補助に対する理解を深める。							
講 義 内 容		別紙 臨床実習要綱による。					

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考	救急救命士標準テキスト 実習要領に基づき実習を行い、 各施設の指示に従い実習を実施する	

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	痙攣・脳圧亢進					学年	2
講師名	池上 徹則	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標 けいれん・脳圧亢進の病態とメカニズム及び救急処置法などを中心に学ぶ。							
--	--	--	--	--	--	--	--

講 義 内 容	1	重症脳障害～総論・発生機序・一次脳病変・二次脳病変
	2	重症脳障害～頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・特殊な意識障害
	3	意識障害～原因・随伴症候・判別を要する病態
	4	意識障害～緊急度・重症度の判断・現場活動
	5	痙攣～定義と概念・病態・種類・原因疾患
	6	痙攣～随伴症候・判別を要する病態・緊急度・重症度の判断・現場活動
	7	失神～定義と概念・原因疾患
	8	失神～判別を要する病態・緊急度・重症度の判断・現場活動
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	体育Ⅱ					学年	2
講師名	高橋 幸	時間数	60	単位数	2	コマ数	30
教科目標 体力を増強し、健全な身体発達を図れる。 消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。 就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。							
講 義 内 容	1	説明(資機材・施設・準備体操・トレーニング方法等)					
	2	ランニング					
	3	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	4	マシンによる筋力トレーニング					
	5	小隊対抗リレー					
	6	ストレッチ					
	7	ダッシュ連続による体力練成					
	8	ランニング					
	9	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	10	マシンによる筋力トレーニング					
	11	小隊対抗リレー					
	12	ストレッチ					
	13	ダッシュ連続による体力練成					
	14	ランニング					
	15	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	16	マシンによる筋力トレーニング					
	17	小隊対抗リレー					
	18	ストレッチ					
	19	ダッシュ連続による体力練成					
	20	ランニング					
	21	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	22	マシンによる筋力トレーニング					
	23	小隊対抗リレー					
	24	ストレッチ					
	25	ダッシュ連続による体力練成					
	26	ランニング					
	27	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)					
	28	マシンによる筋力トレーニング					
	29	小隊対抗リレー					
	30	ストレッチ					

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
		備考	アリーナ及びインドアスタジアムを使用しトレーニングを行う	

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名		シミュレーション実習Ⅲ					学年	3		
講師名		専任教員			時間数	360	単位数	8	コマ数	180
教科目標										
実技試験・筆記試験にむけた、個人・チームでの取り組みをとおり、救急隊員、救急救命士としての活動、手技、知識、学力を身につける。また同時に、チーム協同で問題解決を目指すことの大切さを学ぶ。										
講義内容	1～10	JPTEC								
	11～30	PEMEC								
	31～40	応急手当指導要領								
	41～43	分娩介助、新生児の処置（三瓶）								
	44～60	心肺停止前の輸液								
	61～70	血糖測定、ブドウ糖投与								
	71～90	特定行為の総合								
	91～120	心肺停止症例の現場活動								
	121～150	内因性症例の現場活動								
	151～180	外因性症例の現場活動								

評価方法		終講試験など								
評価基準	新G 評P 価A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。								
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。								
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。								
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。								
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。								
備考		救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する								

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	一般外傷					学年	3
講師名	専任教員、中田敏弘、	時間数	45	単位数	3	コマ数	23

教科目標

外傷一般の病態生理、主な外傷、現場活動の理解。
さらに大規模災害や病院前救護を含めた救急医療体制全般を復習する。

講 義 内 容	1	救急医療体制(病院前救護、救急医療システム)
	2	多数傷病者対応 トリアージ 大規模災害 特殊災害
	3	感染防御 救急資器材・救急車内の洗浄や消毒 感染事故とその対応
	4	外傷の疫学 受傷機転とエネルギー 外傷の分類
	5	主な受傷形態
	6	外傷の病態生理
	7	外傷の現場活動 JPTEC(目的、歴史も含める)
	8	頭部外傷(特徴)
	9	頭部外傷(主な頭部外傷)
	10	顔面・頸部外傷
	11	脊椎・脊髄外傷
	12	胸部外傷(特徴、主な外傷1)
	13	胸部外傷(主な外傷2、現場活動)
	14	腹部外傷(特徴、主な外傷1)
	15	腹部外傷(主な外傷2、現場活動)
	16	骨盤・四肢外傷
	17	皮膚・軟部組織外傷(分類、現場活動)
	18	皮膚・軟部組織外傷(クラッシュ症候群、コンパートメント症候群など)
	19	小児・高齢者・妊婦の外傷
	20	熱傷 化学損傷 電撃症
	21	縊頸 絞頸
	22	刺咬傷
	23	試験対策(まとめ)

評価方法	終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	一般知能・一般知識Ⅲ					学年	3
講師名	大室 英幸、田村 和香子	時間数	45	単位数	3	コマ数	23

教科目標

将来の就職試験でも必要となる一般知能・一般知識の基礎知識を学ぶ。

講 義 内 容	1～3	社会科学 政治(国会・内閣・人権など)経済(市場経済・金融と財政など)
	4～7	人文科学 日本史・世界史・地理・文学・芸術など
	8～10	判断推理 集合・論理・位置関係など
	11～14	数の推理 方程式・不等式・整数・図形など
	15～18	文章理解・資料解釈 現代文・古文・英文・数表・グラフなど
	19～21	適性試験 適性・作文など
容	22～23	自然科学 物理・化学・生物・地学など

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	オープンセサミを使用する 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名		顔面外傷					学年	3		
講師名		境 純平			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標										
顔面の解剖生理、外傷の特徴、救急処置法などを中心に学ぶ。 <u>※実務経験のある教員等による授業科目となる</u>										
講 義 内 容	1	顔面の解剖生理。								
	2	顔面損傷、吹き抜け骨折。								
	3	頸部損傷、軟部組織損傷。								
	4	口腔内・気道損傷。								
	5	症状と処置。								
	6	判断と処置、搬送。								
	7	気道異物。								
	8	消化管異物。								

評価方法		終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

[illegible]

評価方法		終講試験など	
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。	
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。	
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。	単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。	
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。	
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する		

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	救急用自動車同乗実習					学年	3
講師名	実習指導者	時間数	48	単位数	1	コマ数	24

教科目標

各消防本部で実際に救急車に同乗し救急処置の実践的な知識・技術と接遇を身につける。

講 義 内 容		救急車に同乗しての実習(出勤)、待機中の訓練・研修など、実習指導者の指示で行う。

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 実習要領に基づき実習を行い、 各施設の指示に従い実習を実施する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名		高齢者疾患					学年	3
講師名		中田 敏宏	時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標								
高齢者疾患の特殊性、救急処置法などを中心に学ぶ。								
講 義 内 容	1	高齢者の特徴、加齢による変化。						
	2	予備能力、修復力の低下。						
	3	観察・問診のポイント。						
	4	高齢者によくみられる救急疾患。						
	5	脳血管障害、認知症。						
	6	虚血性心疾患、肺気腫、COPD。						
	7	誤嚥性肺炎、骨粗しょう症。						
	8	動脈閉塞性疾患、前立腺肥大、その他。						

評価方法		終講試験など						
評 価 基 準	新 （ G 評 P 価 A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する							

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名		産婦人科・周産期疾患					学年	3		
講師名		三瓶 泰子			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標										
産婦人科疾患、周産期疾患の特殊性と救急処置等を中心に学ぶ。										
講 義 内 容	1	妊娠と関連した疾患の特徴。								
	2	正常分娩の機序。								
	3	分娩の取り扱いと母体搬送。								
	4	観察・問診のポイント。								
	5	流産、子宮外妊娠。								
	6	妊娠中毒症、前置胎盤。								
	7	常位胎盤早期剥離、子宮破裂。								
	8	弛緩出血、羊水塞栓。								
評価方法		終講試験など								
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。								
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。								
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						単位認定		
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。								
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。								
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する									

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名		骨盤四肢外傷					学年	3
講師名		専任教員	時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標								
運動器の解剖生理、骨盤四肢の外傷、主な疾患を学ぶ。								
講義内容	1	疾患の理解に必要な解剖・生理。						
	2	筋・骨格系疾患にみられる症状の特徴。						
	3	脊椎疾患・外傷。						
	4	関節炎、横紋筋融解症。						
	5	骨折の形態。						
	6	骨折の出血量・重症度・処置。						
	7	骨盤骨折の症状・病態と観察。						
	8	骨盤骨折時の対応。						

評価方法		終講試験など						
評価基準	新G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。						
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。						
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。						
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。						
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。						
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する							

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	処置論Ⅱ					学年	3
講師名	工藤 朝生	時間数	15	単位数	1	コマ数	8

教科目標

平成26年4月に救急救命処置に追加された「心肺停止前の静脈路確保と輸液、血糖測定とブドウ糖投与」の理論を学ぶとともに、今後予想される課題を含めた対応についての実践的な知識を検討する。

※実務経験のある教員等による授業科目となる

講 義 内 容	1	意識障害の鑑別(1)
	2	意識障害の鑑別(2)
	3	意識障害の鑑別(3)
	4	ブドウ糖投与
	5	血糖測定とブドウ糖投与のプロトコル
	6	薬剤投与プロトコル
	7	静脈路確保の実際
	8	拡大処置の実際と今後の課題

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名		小児・新生児疾患					学年	3	
講師名		井手 生朗		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
小児、新生児の、解剖生理的特長、特有疾患等の理解									
講 義 内 容	1	小児期の発育発達 新生児疾患 新生児救急搬送							
	2	けいれん性疾患 髄膜炎 脳炎・脳症							
	3	呼吸器疾患							
	4	腹部疾患(主に急性腹症をきたす疾患)							
	5	腎疾患 腸炎 溶血性尿毒症症候群 乳児ボツリヌス症							
	6	川崎病 感染症							
	7	乳幼児突然死症候群 被虐待児症候群 小児の外傷							
	8	小児救急医療 新生児搬送 先天異常 不慮の事故 小児がん							

評価方法		終講試験など		
評価基準	新G 評P 価A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名		精神障害					学年	3		
講師名		三瓶 泰子			時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標										
精神障害の特殊性の救急搬送時の留意点などを中心に学ぶ。 <u>※実務経験のある教員等による授業科目となる</u>										
講 義 内 容	1	精神障害・精神病の定義。								
	2	内因性・外因性精神障害。								
	3	心因性精神障害、精神症状。								
	4	救急活動、搬送の原則。								
	5	自殺企図、昏迷・混迷・興奮への対応。								
	6	病院選定と入院形式。								
	7	悪性症候群、統合失調症。								
	8	躁鬱病、心因反応、その他の精神障害。								

評価方法		終講試験など				
評価基準	新GPA（評価）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			}	単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する					

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名		熱傷・電撃傷					学年	3	
講師名		池田 淳也		時間数	15	単位数	1	コマ数	8
教科目標									
熱傷・電撃傷の病態生理と救急処置法を中心に学ぶ。 <u>※実務経験のある教員等による授業科目となる</u>									
講 義 内 容	1	皮膚組織の構造。							
	2	熱傷の種類。							
	3	重症度分類、簡易識別法。							
	4	熱傷面積の算定。							
	5	気道熱傷と一酸化炭素中毒。							
	6	救急処置、冷却、その他。							
	7	電撃、アーク放電、火焰、雷撃。							
	8	搬送時の留意点。まとめ。							

評価方法		終講試験など		
評 価 基 準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	救急救命士標準テキスト 授業プリント及びテレビモニターを使用する			

＜救急救命士学科 シラバス＞

科目名	体育Ⅲ					学年	3
講師名	高橋 幸	時間数	60	単位数	2	コマ数	30

教科目標

体力を増強し、健全な身体発達を図れる。
消防就職を見据えた体力・筋力トレーニングが出来る。
就職後の消防・救急活動に耐えうる身体作りが出来る。

講 義 内 容	1	説明(資機材・施設・準備体操・トレーニング方法等)
	2	ランニング
	3	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	4	マシンによる筋力トレーニング
	5	小隊対抗リレー
	6	ストレッチ
	7	ダッシュ連続による体力練成
	8	ランニング
	9	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	10	マシンによる筋力トレーニング
	11	小隊対抗リレー
	12	ストレッチ
	13	ダッシュ連続による体力練成
	14	ランニング
	15	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	16	マシンによる筋力トレーニング
	17	小隊対抗リレー
	18	ストレッチ
	19	ダッシュ連続による体力練成
	20	ランニング
	21	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	22	マシンによる筋力トレーニング
	23	小隊対抗リレー
	24	ストレッチ
	25	ダッシュ連続による体力練成
	26	ランニング
	27	自重による筋力トレーニング(腕立て伏せ、腹筋、背筋、上半身強化、下半身強化)
	28	マシンによる筋力トレーニング
	29	小隊対抗リレー
	30	ストレッチ

評価方法		終講試験など		
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。		
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。		
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。		単位認定
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。		
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。		
備考	アリーナ及びインドアスタジアムを使用しトレーニングを行う			